

Miquel を捨てて *Quercus grosseserrata* を採つたのは万国命名規則第 56 條の精神に反するものであるが Blume 氏の *Q. grosseserrata* は 296 頁に出て居り *Q. crispula* は 298 頁に出て居る。同じ本で同年に出たものなら月が異つても同時発行と見たり、頁数が異つても同時発行と見たりするのは私は賛成は出来ない。他の学者がどうあらふと頁数の少ないものが早いにきまつて居る。

454) ナガバミヅナラ(新品種)葉の狭長いミヅナラである。以上二植物は共に昭和 23 年 10 月 21 日に山形縣西田川郡念珠関(ネズガセキ)村字早田(ワサダ)の山で発見した。

455) チャボアヲキの斑入品 チャボアヲキ(中井 1909 年), ヒメアヲキ(宮部, 工藤 1913 年)の学名は *Aucuba japonica* var. *pygmaea* (Carrière) Regel が正しい。其葉に白い斑のあるのを前記の山で発見した。

456) ハナヤマボウシ(新品種) ヤマボウシの苞の非常に大きく長さ 7—8 cm, 幅 5—5.5 cm のものが上州鎌田の山にある。旅館に山から折つて来て生花として居たのであるが斯んなのは今迄見た事はない。

457) ハルリンドウに二型ある。一は太く大きくなる形のもので Maximowicz 氏が最初に阿蘇山で採り, Thunberg 氏は長崎附近で採り其他土佐, 紀伊, 越前, 石狩等でも採られて居る。一は細い瘦形のもので土佐, 甲斐, 上野, 下野, 岩代等で発見された。Thunberg 氏の採つたものは *Gentiana aquatica* の名で Flora Japonica に出て居るが三通りの標本を混じたものである。氏が α として居るものはコケリンドウと乳頭状の突起のない変種 var. *glabra* とから成り, β として居るものはハルリンドウの太型である。

458) タテヤマリンドウをハルリンドウの変種にして居るのはよくない。独立種 *Gentiana minor* とすべきだ。其理由はタテヤマリンドウはハルリンドウの様に乾燥地になく又高山性で莖は分岐しないのが多く, ハルリンドウよりも細く花は淡く種子は全然平滑である。リンドウ類は種子の模様が種の区別をするよい特徴になる。

〇ヒトツバヒヒラギ (久内清孝)

K. HISAUCHI, On *Osmanthus ilicifolius* var. *myrtifolius*.

東京大泉の牧野先生の邸内に 2 本のヒヒラギがある。即ち玄関の少し手前の右にあるのがモチノキ科の支那産のもので *Ilex cornuta* Lindl. であるが、これは珍らしいと云ふ丈であるが、右手の全縁、鋭頭でネズミモチの様なものが問題なのである。私は古くからよく知つて居たが、和名を知らなかつたので先生に伺つたら平然としてヒトツバヒヒラギと答えられたがこの名はまだ未発表なので、先生に尋ねて見たが、先生も発表された記憶がたしかでないで、ここに先生の許を得て、この和名を公表する。この木は往年石神井で人の栽培されたものを譲り受けたもので、雄本で秋にはよく花が咲くと先生は語られた。どこかに親木がある筈だが、私は勿論先生も他で見たことがないと云ふ。学名は *Osmanthus ilicifolius* Mouillef. var. *myrtifolius* Mouillef.